

第42回全国ホタル研究大会報告

研究大会の概要

全国ホタル研究会の第42回大会が平成21年7月3日～5日の3日間、青森県青森市にて、全国ホタル研究会主催、第42回全国ホタル研究大会青森大会実行委員会主管、環境省、青森県、青森県教育委員会、青森市、青森市教育委員会、細越町会、NHK青森放送局、青森テレビ、青森放送、青森朝日放送、エフエム青森、青森ケーブルテレビ、東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、読売新聞青森支局、朝日新聞社青森総局、毎日新聞青森支局、産経新聞社青森支局、河北新報社青森総局の後援で盛大に開催され、全国各地から227名の参加をいただきました。

3日12時00分から青森市民ホールで受付が始まり、13時からオリエンテーションが開催されました。実行委員長の佐藤鐵雄氏の歓迎の挨拶と諸連絡の後、14時にバスで市民ホールを出発し、三内丸山遺跡へ移動しました。14時30分よりいくつかのグループに分かれ、ボランティアの案内で遺跡を見学しました。市民ホールへ戻ると16時から3会場に分かれ、「ゲンジボタル・ヘイケボタル」「ヒメボタル」「ホタルの里づくり」の3つの分科会が開催されました。

分科会後ホテルで夕食を済ませ、バスで細越地区へ移動。細越ホタルまつりの会場となった栄山小学校にはテントがはられ、地元の野菜や飲食物などが販売されていました。ここで細越ホタルの里の会・沢谷剛一氏の挨拶の後、細越保育園の園児と先生、栄山小学校の児童とPTAの「はねと踊り」が行われました。踊りが盛り上がってくると、会員の方も引っ張り出されて一緒に踊っていました。あたりが暗くなりだすと、徒歩でホタルの里に移動し、ホタルを観賞しました。ホタル見学の後には細越公民館へ移動し、細越町会との交流会が行われ、金多舞次郎氏と鈴木萌花ちゃんの手踊りやアトラクションを楽しみつつ、細越の方々との交流を深めました。

翌4日、青森市民ホールを会場に研究大会が開催されました。9時30分より青森放送の山内千代子氏の司会で開会式が始まりました。開会宣言を中村副会長が行い、続いて古田会長の挨拶の後、三村伸吾県知事（代理）、田村亮治教育委員会教育長（代理）、鹿内博青森市長の祝辞と続き、来賓が紹介され、開会行事を終了しました。

開会式の後研究発表に移り、青森市立栄山小学校の児童による学校での取り組みの紹介、佐藤鐵雄氏による細越ホタルの里の活動の取り組み、沖津秀樹氏による青森県内のホタル保護活動の紹介と地元の取り組みが報告されました。続いて、久米島のホタルレンジ



栄山小学校児童の発表



栄山小児童から久米島ホタルレンジャー
への記念品の贈呈

ヤーの子ども達による久米島での調査活動の発表がありました。発表後、栄山小学校の児童からホタルレンジャーの子ども達へ記念品が贈られました。その後、昼食をはさみながら会員による6件の研究の発表があり、近藤邦雄副会長の閉会宣言で研究発表が終了しました。最後に42回総会が開催されました（総会報告参照）。

研究大会終了後は、国際ホテルに会場を移し、青森放送の秋山博子さんの司会で交流懇親会が開催されました。古田会長、佐藤鐵雄大会実行委員長の挨拶、鹿内青森市長の来賓挨拶の後、蝦名文昭青森観光コンベンション協会会長から、次期開催地である長野県山ノ内町に大会幕の受け渡しがあり、次期開催地を代表として竹節義孝山ノ内町長の挨拶が行われました。渋谷勲青森市議会議長による乾杯の後、津軽三味線や八戸えんぶり、横濱よさこいなどのアトラクションを交えつつ会員や地元大会関係者との親睦を深めました。最後に沖津秀樹大会実行副委員長による閉会挨拶で終了となりました。

5日は8時30分から希望者による青森湾内クルージングがありました。

会 場：青森県青森市 青森市民ホール

大会日程：

7月3日（金）

- | | |
|-------------|---------------------------|
| 12：00～13：00 | 受付（青森市民ホール） |
| 13：00～14：00 | オリエンテーション |
| 14：30～15：30 | 三内丸山縄文遺跡見学 |
| 16：00～17：00 | 分科会（青森市民ホール） |
| 18：30～20：30 | 細越ホテル祭り、ホテル観賞（青森市細越ホテルの里） |

- 20：30～21：30 青森市細越町会交流会（細越公民館）
- 7月4日（土）
- 9：30～10：00 開会式
- 10：00～15：00 研究発表
- 15：30～16：00 第42回総会
- 17：30～20：30 交流懇親会（国際ホテル）
- 7月5日（日）
- 8：15～11：00 青森湾内クルージング

研究発表：

- ①ホテルと環境についての取り組み …………… 青森市立栄山小学校
- ②縄文の光を永遠に …………… 細越ホテルの里の会
- ③青森県内のホテル保護活動について …………… 青森県ホテルの会
- ④久米島にホテルを呼びもどすためのホタレンジャー調査活動
…………… 守れホテル・ジュニアーズ
- ⑤横須賀市長井海の手公園ソレイユの丘ホテルの水辺整備の経過 …… 大場 信義
- ⑥新横浜公園におけるヘイケボタルの里づくりと里親制度の実践
…………… 横浜ほたるの会
- ⑦ゲンジボタルの移入の問題 …………… 井口 豊
- ⑧ゲンジボタル幼虫のミミズによる飼育経過報告 …………… 大内 紘三
- ⑨志賀高原石の湯ゲンジボタルの生態—そのⅠ …………… 三石 暉弥
- ⑩遺伝的から見たゲンジボタルの遺伝的グループの判別 …………… 草桶 秀夫
- （共同発表の場合は発表者のみ）

大会開催地より

大会を終えて

青森大会実行委員長 佐藤 鐵雄*

冬の初めに雪のちらつく様は、ホテルのそれと良く似ています。今はそんな季節になってしまいました。

青森大会の一義は、これを機会に県下のホテル活動の一層の展開を図ることにありましたので、県内から一人でも多くの方に参加して欲しいと考えていました。そのため、県内の鉄道の駅や道の駅、そして学校という学校にポスターを配ることから始めています。

配るだけでは貼ってもらえない場合もありますし、ましてや全て無料ですから、根回しも必要でした。折しも首長選や衆院選の最中のため、誤解を受けないように慎重に進めなければなりません。ですから、国や県、市の関係者から積極的な協力を得られたことは、今さら申し訳ないのですが、意外の感がありましたし、大変元気をいただきました。

中でも、高校同期の県議員と鉄道マンには、お二人の力なくしては実現できなかったのではと思うほど感謝しております。

もちろん、思い切った宣伝活動ができたことは、百年に一度の不況と言われながらも、ご協賛いただいた各社各位のご理解があったればこそであります。

また、昼夜の別なくご指導いただいた古田会長、佐久間事務局長には、ご無礼をお許しいただくほかありませんが、大会誌を担っているシステム印刷の社長さんには、メールの中継ぎまでお願いしてしまいました。申し訳ありませんでした。

何にも増して、大会の主役は北海道から沖縄までご参加いただいた皆さんです。数ヶ月が過ぎた今でも、その一場面一場面が思い出されます。お世話をすることが実行委員の仕事ですが、逆に、参加者に助けられ、励まされたことがどれほど多かったことでしょう。肌寒い中ながらお出でいただき、当地細越の一同も大変喜んでいました。

本当にありがとうございました。

ホテルは、母なる大地のメッセンジャーであり、子供たちの夢であり、人々の希望です。絶対に守って行かなければなりません。このことは、この大会の準備から終わりに

いたるまで、接していただいた多くの方々から得た、強い印象です。

次期、志賀高原大会を楽しみにしております。

第42回 全国ホテル研究大会 青森大会を終えて

青森大会実行副委員長 沖津 秀樹*

「第42回 全国ホテル研究大会 青森大会」に遠路はるばるご参加の会員の皆様、ご来賓の皆様、協賛各社、そして地元 細越ホテルの里の会の皆様、そして実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

青森県ホテルの会は、津軽地域・南部地域の6ホテル保護団体が、1997年12月に設立以来、ホテルの保護増殖や情報交換を目的に小規模ながら活動してきました。

今回の青森大会を契機に、さらに多くの団体にも呼びかけ「青森県のゲンジボタル・青森県のヘイケボタル」の保護育成に一層努めていきたいと思っておりますので、全国の会員のご支援を今後ともよろしく願いいたします。

*青森県ホテルの会事務局長

楽しかったこと

青森大会実行委員 長谷川 幸治*

第42回全国ホテル研究大会が青森市で開催され、その実行委員として参加でき、また楽しい思い出ができました。

今回の大会の実行委員長の佐藤さんから実行委員の要請を受けた時は、自分の仕事が多忙なこともあり、休暇をとってまで参加する気持ちにはなれませんでした。しかし、佐藤さんが私の上司をお願いしてくれて参加できました。

実行委員会が青森県ホテルの会をはじめ、地元の腰越町内会、栄山小学校など32名で組織されました。長年にわたってホテルの保全に努めてきた方々ばかりで、熱く語りかけてきます。しかし、今までホテルの保全活動に参加したことがないので、ただうなづくばかりでした。

大会では受付係で、応対する若い女性の後ろで資料を手渡したり、来賓を控え室へ案内しました。大会がはじまり受付も一段落したころ、飛行機が遅れたため青森空港から会場まで来られずに困っているとの電話があり、道順とバスかタクシーを利用できることを伝えました。間もなく、受付にその方々が到着しお礼を言ってくれました。はるばる沖縄から大人2人で8人の小中学生を連れて来て、明日その子供たちが発表することでした。佐藤さんからの指示でこの方々の手助けをすることになりました。とにかく明るく元気な子供たちで、1千人の会場やホテル水路などの見学場所を走り回り、大

きな笑い声が響き、瞳が輝いて見えました。

3日間の大会もあっという間に終わり、1週間後に手紙が届きました。その返事を書きながら、新婚旅行以来の沖縄へもう一度行ってみたいと思いました。参加できて本当に良かったと思っています。

*青森県東青地域農村計画課長

「栄山小の子どもたちと参加して」

青森大会実行委員 木立 匡英*

細越ホテルの里の会の皆様方を始め、町会・地域の皆様方とともにスタッフの一員として、本大会に携わることができましたことに心からお礼申し上げます。

子どもたちも二日目に行われた研究発表において、「ホテルと環境についての取り組み」と題し、日頃のホテルに対する思いや活動内容を上手に表現しながらトップバッターという非常に緊張する状況の中、一人ひとりが立派に堂々と発表してくれました。発表後の会場いっぱいを埋め尽くした拍手の嵐と子どもたちの笑顔は、この日、私への最高のプレゼントになりました。

また、最終日には、本大会実行委員会の皆様方のご厚意により、子どもたちとともに観光遊覧船による青森湾のクルージングにお招きいただき、普段ではなかなか見ることのできない海上からの素晴らしい景色を堪能するとともに、全国から参加していただいたホテル関係者の方々とも親しく交流することができました。

今回の研究大会への参加を通して、これからも地域・学校・PTAの連携をより一層深め、多くの皆様方とともに互いに手を取り合いながら、かけがいのないこの細越ホテルをいつまでも守り続けていかなければならないと改めて実感したところであります。と同時に、同じ夢や希望を持った沖縄久米島の子どもたちのホテルに対する熱い思いは、間違いなく栄山小の子どもたちの胸をにも響き渡り、子どもたちも自然環境保全の大切さや地域の誇りとする気持ちがさらに深まったことと思います。いつしか次世代を担うこの子どもたちが細越の宝を必ずや受け継いでいてくれるでしょう。

*青森市立栄山小学校PTA会長

大会スタッフとして

青森大会実行委員 木村 清嗣*

本大会には、北は北海道から、南は沖縄の久米島町の皆さんまで、約300人の方の参加となりましたが、「おもてなしの心」で参加者へ感動を与えることが出来ればと、スタッフ全員が一致団結して取り組みました。多少のトラブルはありましたが、参加者

全員が良識ある大人と、旅なれている方々ばかりでしたので助けられた感があります。

大会受付では、資料及び大会参加記念品の袋詰め作業から始まり、受付においては参加者氏名のチェックと資料の配付が混乱を起こさないように、所属団体ごとに仕分けして対応したのは中央学院大学の学生による提案でした。

青森市内の三内丸山遺跡見学では、前年開催地のながさきホテルの会の参加者を現地で合流し案内したことは、連携プレーが良く参加者に喜ばれました。その後、細越ホテルの里の見学と、公民館においての交流会も青森の食材に舌鼓を打ち、見学者の声として、ホテルの数は多い少ないが必ずあるが、細越町民の暖かい気持ちに感動したとの声が上がりました。

翌日の青森市民ホールでの研究発表では10のテーマで発表がありましたが、大学の教授やホテル研究の第一人者の発表で、私は、情熱を持ってホテルに接し、研究していることに対し、感動を覚えました。

また、交流懇親会では、青森県の伝統ある芸能も披露できましたし、翌年開催の長野県にもメールを送ることができ、成功裏に終わったのではと考えています。

最終日は湾内クルージングで大会を締めくくりましたが、青森駅、青森空港まで送り怪我もなく終了し、「ほっと」した気持ちになったのはスタッフ全員の本音です。

スタッフの一員に加えていただき、達成感を与えてくれてありがとうございました。

*細越大年縄保存会副会長

大会の中の細越ホテルまつりを担当して

青森大会実行委員 鈴木 英三*

「全国大会」と言う名称の為にいくらか緊張していました。今までと違いどれだけの人数が訪れるかとの不安が有りましたが、時間とともにスタッフがつぎつぎに集まり始めたので安心して来ました。前もって配置の準備等が出来ていた為に協力者の名簿を作るのもスムーズに出来ました。今回は全国大会の為に指導隊の人数がかなり多くに成りましたが、普段の祭りの際には少なくとも、1/3位で、良いと思います。

エレキバンドのベンチャーズサウンドに懐かしく思う人も多かったと思いますが、ベンチャーズ(エレキ)を懐かしく感じる(思う)年代は五十歳代か六十歳代の年代の方ではと感じました。他の年代の方々はあまり興味がなかった様でした。ハワイアンは？

ねぶた囃子の時に保育園の方々がねぶたの衣装で参加されましたが、その時にもっと一般の方も参加(跳ねる)出来るよう工夫が欲しかった。そうすれば県外の方々達ももっと囃子の中に入れたかも。スタッフ自身からすすんで参加し、周りの人々を誘い跳ねるともっと多くの方が参加できたかも。

ホテル祭りでは野菜などの販売をしていますが、買い求める方は見学の前に買い求めるか、後で買うか迷っています（品物がなくなる）。見学に来た方が買った際には帰るまで預かる方法で一時預かり所を考えては値引き（安売り）が少なくなるかも。

今回の祭りでは本部と駐車場と観察台との連携がうまく行き届き人員の配置の移動ももうまく行きました。遅く駐車場に入った車には観察台と連絡をとりホテルの飛翔状況を確認し、見学者に説明し帰ってもらいました。観察台の方も撤収の際帰りながら観察台に向かっている見学者に飛翔状況と飛翔する時間帯など説明し、一緒に来てもらいました。これからも最後にもう一度見学者などが居ないか確認したほうが良いと思います。

前に「うちわ」を差し上げていましたが、団扇がないかと聞かれました。この団扇にホテルに関して、見学に時期、時間帯、見学の仕方、マナー等のいろいろを表示し、また、遅く駐車場に来た方にもパンフレット（団扇と同じ内容）を差し上げて帰ってもらっては。

今回は祭り期間に観察台の方には車で行けない様に、通行止め（時間帯）の仮の看板を設置しました。これからは祭り期間だけでなく飛翔時期にも設置しては。

私は昨年本部を担当していましたので、今回も本部でしたので負担を感じられなくスタッフとして出来たと思います。

*細越ホテルの里の会・冬実行委員長

大会スタッフとして

青森大会実行委員 澤谷 一男*

大会一日目の7月3日は、荷物運びにはじまりました。

会場の青森市民ホールは、市民のボランティアチームかや学生・市の職員のお手伝いをいただき受付の準備をし、お昼から受付に備えました。

受付・オリエンテーションを終え、三内丸山遺跡の視察に移り、2号車愛知県を担当しました。参加者のお一人に、歩行が難しい方がおられましたので心配をしましたが、天候にも恵まれ、無事に終えてホッとしたのを覚えております。

その後も、分科会・夕食・細越ホテルの里と会場の移動が続きましたので、迷ったり事故のないように気を配りました。

でも、細越の公民館では予定の時間をオーバーするくらい喜んでもらったので、うれしかったです。

二日目の4日は、開会式に引き続き「ホテル何でも相談コーナー」を担当しました。その場では、ホテルの種類は世界中に二千種類もあり、そのうち日本には三百種類ほど生息し、水辺だけでなく陸地にいたり、光らない種類もあることを教わり、驚きました。また、古田会長さんからは、ホテルの折り紙も教わりました。

そして、夜の交流懇親会となりました。津軽三味線、八戸えんぶり、横濱よさこいと続いたアトラクションは、参加者の方々から感激のご感想をいただきましたが、私自身も興奮してしまいました。

三日目の5日は、青森の海から街なみを見学していただきましたが、八甲田山が見えなかったことは残念でした。

この三日間を通じて、特に愛知県の方々と接する機会が多く、お別れの際には何となく他人とは思えなくなり、再会を約束してしまいました。

ホテルの活動に参加してきて、このような体験ができるとは考えてもいませんでしたので、良い思い出になりました。

*青森市立西中学校PTA校外委員長

青森大会を振り返って

大会実行委員 相馬 多一郎*

私がボランティア活動する時は「楽しみながらお手伝いする」「できれば何か学びたい」と心がけている。

今年の第42回全国ホテル研究大会青森大会も、この心がけをモットーにお手伝いするつもりだった。

しかし、当日は「細越ホテルの里祭り」も例年通り実施するため、ほとんどの会員が「ホテルの里祭り」や研究大会参加者と細越地区の方々との交流会準備に当たることになり、3日間の研究大会会場担当は会長も含めわずか4名の会員で担うことになった。

当日のマンパワーはボランティアに頼るしかない。そして、私はボランティア担当リーダーを依頼されてしまったのです。「こりゃ、楽しむどころじゃないなあ」と言うのが当初の感想だった。しかし、ここからが縄文人の子孫、細越人の強いところ。翌日には、「自分だけ楽しむのじゃなく、他のボランティアの人たちとも一緒に楽しんで大会運営しよう」と気持ちを切り替えた。さっそく、勤務する短期大学では「履歴書に記載できる有意義なボランティア活動」と、所属する青森県ボランティアズ・クラブ(AVOC)には、「青森県と全国のホテルについて学べます」を売りにボランティアを募った。

その結果、青森市役所職員有志、青森中央短期大学の学生、青森中央学院大学の中国、マレーシア、ベトナムからの留学生、そしてAVOCのメンバーと総勢30人以上の協力者を得ることができた。

実は私が募ったボランティアには、一つ公約していたことがあった。それは「事前学習」。ただ、当日運営スタッフとして、お手伝いいただくのでは全くマンパワー、事前

に集まり、「細越ホテルの里の会について」学んでいただくことで、ボランティアには単なるお手伝いではなく「スタッフの一員」という自覚が芽生えたと自負している。

そうして臨んだ第42回全国ホテル研究大会青森大会、参加された皆さん！我々ボランティアの「もてなしの心」は如何だったでしょうか。大会会場で、三内丸山縄文遺跡で、さらに細越ホテルの里で、精一杯の「もてなしの心」を披露させていただいたつもりです。決して100%の出来ではなかったかも知れませんが、お見送りの際、駅やバスの窓から手を振っていただいたその姿から、我々の苦労も報われた思いです。

そして、その時の合い言葉が「来年、長野であいましょう！」でした。

皆さん、それまでお元気で！志賀高原大会が終わったら、秋にまた青森へお越しください。その時には東北新幹線が青森市まで開通しています。

我々、青森人は、今回の全国ホテル研究大会で育んだホスピタリティ（おもてなしの心）を、今度は新幹線で青森を訪れる県外からの皆さんに生かしたいと思います！

Hasta la vista！（アスタラビスタ！：スペイン語で「また会う日まで！」）

*青森市立栄小学校PTA副会長

全国ホテル研究大会で

青森市立栄山小学校5年 木立 百香

7月4日に、市民ホールで全国ホテル研究大会が行われました。たくさんの人達の前で発表することはなかったのでとても緊張しました。発表した内容は、「ホテルと環境について」です。二週間くらい前から練習をして、練習中は少し言い間違えたりしたけれど、本番では、言いまちがえずにできました。

私の栄山小学校のじまんは「ホテル」です。毎年7月初めの金・土・日曜の夜に「ホテル祭り」が行われ、今年は全国のホテルを飼育している人たちがおいでになりました。

今年見ることでできたホテルの数は、去年と同じくらいで、減ってなくてよかったです。

来年も活動をがんばりたいと思います。

全国ホテル研究大会に参加して

青森市立栄山小学校5年 相馬 未来

私たち、栄山小学校は、ホテルを育て張るにはホテルの放流、夏にはホテルのカップリングをしています。

春に放流するホテルの幼虫は、夏、秋、冬の間大切に育てたものです。そして放流したホテルが飛びかがやくようになるとホテル祭りが開かれます。毎年、ホテル祭りに大

勢のお客さんが来ます。今回の全国ホタル研究大会では、ホタルのことをもっと知ることができました。沖縄から来たクラブの人達の発表を聞いていて、沖縄にもホタルがいてホタルのいる川はとてもきれいな水だということが分かりました。また、沖縄のホタルは青森のホタルとは形と色がちがうことやかたつむりも食べることがわかりました。

沖縄の友達にホタルのぼうしなどをプレゼントしました。遠い沖縄の人達と交流することができて心に残るいい大会となりました。

栄山小のホタル

青森市立栄山小学校6年 若佐谷 達也

ぼくたちは、ホタルの飼育やカップリングをし、ホタルを増やし守る活動をしています。7月には、ホタル祭りなどの大きな行事がありました。この時は50匹以上ものホタルが飛びまわり感動あふれる光を見せてくれました。

今回、ホタルの全国大会で発表してとても緊張しました。でもいろいろな全国のホタルについてよく分かりました。栄山小学校のホタルの飼育活動についても分かってもらえたと思います。なのでホタル祭りにはもっとたくさんのお客様に来ていただきたいです。そのためにもホタルを守る活動には積極的に参加し、みんなでホタルを守りたいと思います。

ホタルの全国大会に参加でき、他の県のホタルについてよく知り、良い経験になりました。ありがとうございました。

ホタル全国研究大会

青森市立栄山小学校6年 今 藍理

ホタルの研究大会では、私達の考えを大勢の人の前で発表してとても緊張しましたが、なかなか体験することのできない、貴重な体験が出来て良かったです。

この研究大会を通して、昔は今よりも、たくさんホタルがいたけれど、ホタルを見に来た人が採って、減ってしまったこと、そのホタルを増やそうとしてホタル祭りが出来たことが分かりました。

また、ホタルは一びきで卵を約500個産むこと、ホタルが一びき死んだだけで、約500個の卵、その卵に関連している多くのホタルの命が失われることを知りました。だから、今まで以上に、ホタル一びき一びきが大切だと思いました。そして、その中でも葉のうらなどにかくれ、光が小さく、見つけにくいメスは特に貴重で大切だということが分かったので、これからは、今まで以上に守っていきたいと思います。

私のふるさとが昔のようにホタルがたくさん飛び交うようになってほしいです。